

# レスポンシブル・ケア

## 1. 基本的な考え方

JSRグループは、経営方針「ステークホルダーへの責任」および「環境・健康・安全に関する日本化学工業協会基本方針」を参考に環境安全マネジメント方針の推進項目を制定しており、これに基づく具体的な活動計画を策定して、レスポンシブル・ケア® (RC)活動を推進しています。

## 2. レスポンシブル・ケアとは?

### 国際的なイニシアティブへの参加

化学工業界では、化学物質を扱うそれぞれの企業が化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至るすべての過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し社会との対話・コミュニケーションを行う活動を展開しています。この活動を『レスポンシブル・ケア(Responsible Care)』と呼んでいます。

世界のRC活動を充実・強化させるため、国際化学工業協会協議会(ICCA)が化学産業界共通の自主的な活動方針「RC世界憲章」を制定しています。

JSRはこの活動方針に賛同しており、RC世界憲章への支持宣言書に2008年10月に署名するとともに、改訂RC世界憲章への支持宣言書にも2015年3月に署名しています。この署名により当社は国内だけでなく、世界的な健康・安全・環境保全の向上に、より一層貢献することを約束しました。



RC世界憲章 支持宣言書

## 安全衛生の取り組み

〔非財務KPI〕  
設備災害、労働災害ゼロ

### 1. 安全衛生の基本理念と行動指針

JSRは、『健康的に』『安全で』『安心して』働ける職場を実現するための基本となる、JSRトップの所信表明(トップコミットメント)を明文化した『安全衛生基本理念』のもと、会社、従業員一人ひとりに求められる具体的な行動を示したものととして『安全衛生基本理念の行動指針』を制定しています。

#### 〈安全衛生基本理念〉

「安全」は、我々にとって、何よりも優先すべき**大切な価値**であり、全ての**活動の基盤**です。日々の仕事を終え、無事に帰るといふ、**当たり前**の**幸せ**のために、安全・安心な職場作りと心身の健康作りに努めます。

#### 〈安全衛生基本理念の行動指針〉

1. どのような状況下でも、常に安全を意識して行動する。
2. 決められたルールを遵守し、安全行動を率先する。
3. 頭在または潜在するリスクの把握と低減に努め、安全を確保する。
4. 働きやすい職場環境作り、心身の健康増進に努める。
5. コミュニケーションと創意工夫で全員参画の活動を目指す。

## 2. 労働安全衛生の取り組み

### 労働災害実績

2018年はJSR社員の休業、不休業災害とも発生しませんでした。協力会社では不休業災害は発生しませんでした。休業災害が1件発生しました。

国内グループ企業では、2018年に社員の休業災害2件、不休業災害3件発生しました。国内グループ企業の協力会社では休業災害は発生しませんでした。不休業災害が2件発生しました。

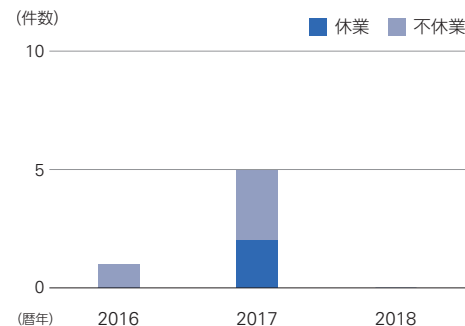
国内グループ企業では労働災害全体の発生件数・休業災害の件数とも増加傾向にあり、躓き・転倒、巻き込まれ被災事例が増えています。

また、海外グループ企業でも国内と同様な災害発生が続いており、JSRグループ全体の安全活動連携を深めて改善を進めていきます。

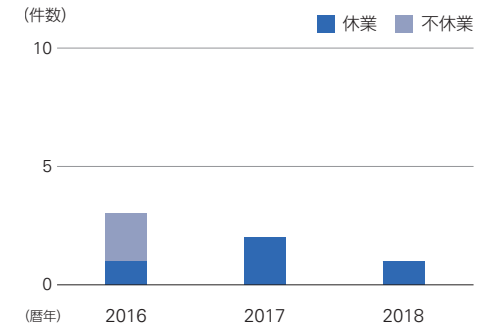


安全モニュメント

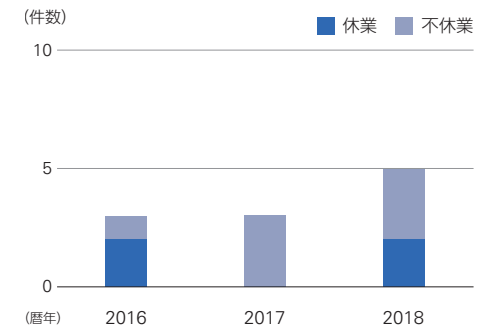
### 労働災害発生件数 (JSR)



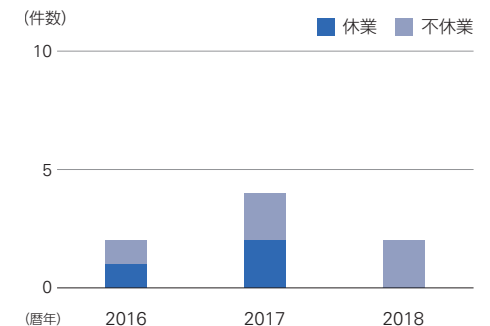
### 労働災害発生件数 (JSR 協力会社)



### 労働災害発生件数 (国内グループ企業)



### 労働災害発生件数 (国内グループ企業協力会社)



## レスポンスブル・ケア

### 環境負荷低減

【非財務KPI】

温室効果ガスを2013年度比  
15%削減(2030年度)

#### 1. 温室効果ガス(GHG<sup>※</sup>)排出量削減の取り組み

地球温暖化による環境問題(森林火災、干ばつ、生活水不足、海面上昇、絶滅危機、生態系影響など)は地球規模で発生しており、日本においても、豪雨による水害、真夏日・猛暑日の増加による熱中症などの健康被害、サンゴの白化現象といった生態系への影響などがみられています。JSRグループは、この問題を重要課題の一つと認識し、製品を生産・提供する様々な過程におい

て必要なエネルギーの使用量削減など、GHG排出量削減に取り組んでいます。

※GHG: greenhouse gas

#### (1) JSR単体(事業所)での対応

##### ● Scope 1、2への対応

JSRでは、鹿島工場(鹿島南共同発電)での燃料転換や四日市工場での天然ガス焼きガスタービンコージェネレーション設備、汚泥乾燥設備の導入といった、省エネ技術の高度化などに取り組み、『3工場トータルのCO<sub>2</sub>排出量を1990年度対比6%削減体制』を2012年度に確立しました。2018年度は、1990年度対比で7.4%のCO<sub>2</sub>排出量削減となりました。

2005年度以降、上記の燃料転換や大型設備投資などを進めることにより、2005年度対比で2013年度までに21.6%の大幅削減を実行しました。

ただし、2013年度以降は、省エネ活動などに取り組んできましたが、ほぼ横ばいの状態になっています。

今後は、『2013年度対比で2030年度までに15%削減』を長期目標とし、省エネ活動に加え、高効率設備の導入、再生可能エネルギーの活用などを通じ、GHG排出量の削減に努めていきます。

本社ビルでは、自主的にエネルギー削減目標を定めて省エネルギー活動を推進しています。

2018年度は、上記の主な取り組みを実施した結果、電力使用量は基準年平均値を下回り、基準

年平均値対比で15.6%の削減を達成しました。

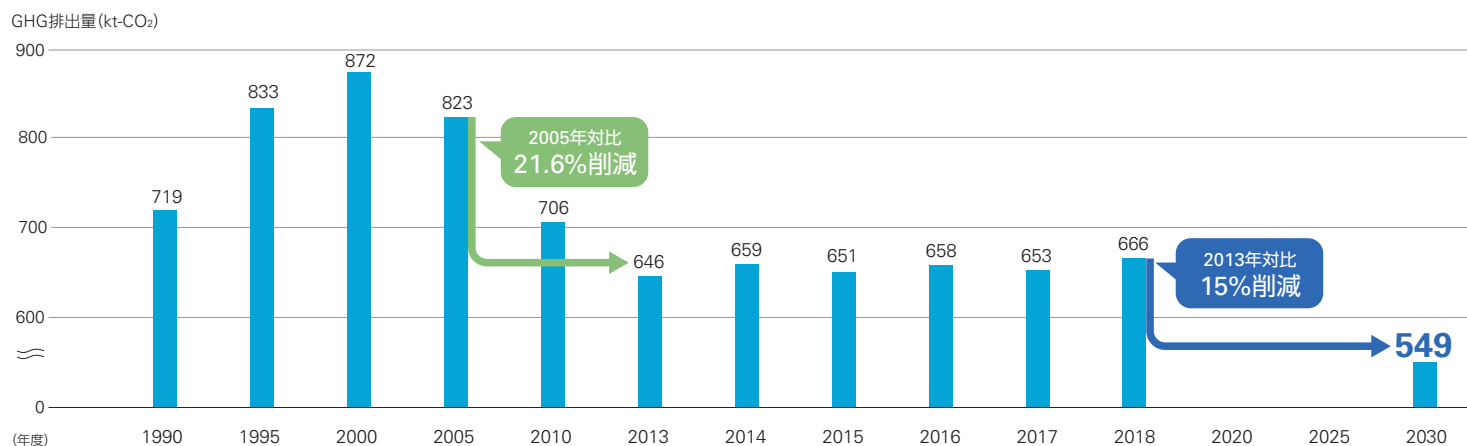
##### ● Scope 3への対応

改正省エネ法で定める特定荷主として輸送エネルギー削減の取り組みを計画的に行っています。2018年度も製品・原料の鉄道・船舶輸送化を推進し、モーダルシフト率は約85%と前年度と同様に高い水準を維持することができ、輸送エネルギー原単位を抑制することができました。

#### (2) グループグローバルでの対応

2018年度の当社グループグローバルでのGHG排出量は、1,078kt-CO<sub>2</sub>で前年度比2%増となりました。グローバルにおいても、長期的視点での活動を進めていきます。

#### JSR単体のCO<sub>2</sub>排出量推移と2030年の削減目標



# レスポンスブル・ケア

## 廃棄物削減

【非財務KPI】  
ゴミゼロの目標の達成維持

### 1. 産業廃棄物削減の取り組み

JSRグループでは、廃棄物の発生抑制、廃棄物分別の徹底、再資源化先の探索等に取り組んでいます。2018年度の廃棄物発生量は、グローバルで72千トンでした。

#### JSR単体

JSRでは、2000年度から『ゼロエミッション』※1を目標に、廃棄物の発生抑制、分別の徹底、再資

源化先の探索などに全社一体となって取り組んでいます。2003年度以降は、ゼロエミッションを継続しています。

※1 ゼロエミッションの当社定義：外部最終埋立処分量を廃棄物発生量の0.1%以下にする

特に、四日市工場では、廃棄物発生量の約90%を占める、①汚泥類と、②石炭灰に対して、以下の対策を継続しています。

- ① 汚泥類は汚泥乾燥設備を導入し有価物化(燃料化)。
- ② 石炭灰はセメント原料として再資源化。

さらに、三重県産業廃棄物対策推進協議会の役員会社として活動しており、地域と協力して産業廃棄物を適正に処理し、数量削減に努めてい

ます。

また、JSRでは、循環型社会形成を目指し、『2030年に2013年度対比で廃棄物発生量を15%削減』を目標とし、更なる再資源化先の探索などを推進しています。

2018年度は、2013年度対比で廃棄物発生量を4.5%削減しました。今後も目標達成に向けて、産業廃棄物削減の取り組みを継続していきます。

### 2. 海洋プラスチック問題への対応

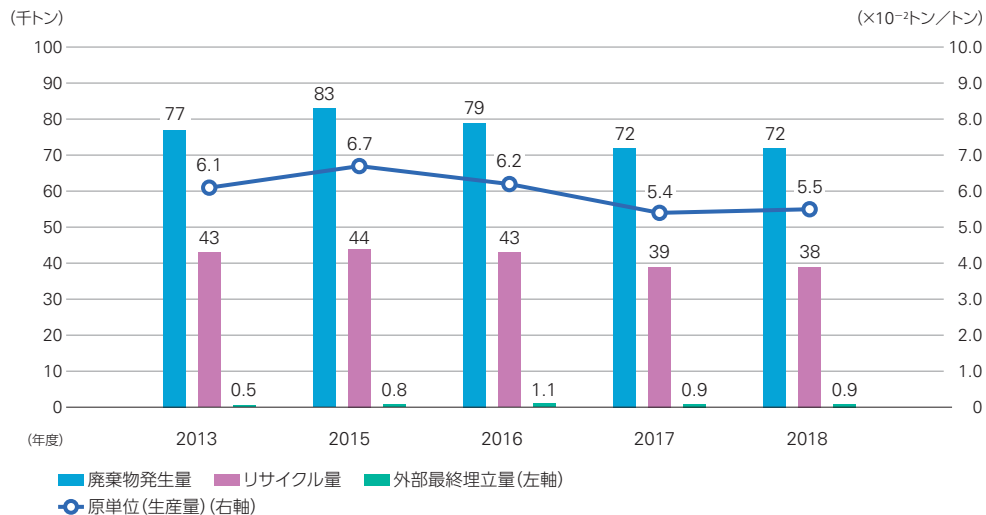
JSRグループでは、海洋プラスチック問題を重要課題の一つと認識し、化学業界5団体により2018年9月7日に設立された「海洋プラスチック問題対応協議会(JaIME)」に発起人会社として参画しています。また、国の「プラスチック資源

循環戦略(案)」を受け、国内におけるJSRグループのプラスチック類の処理フローを調査し、管理すべき指標を検討しました。

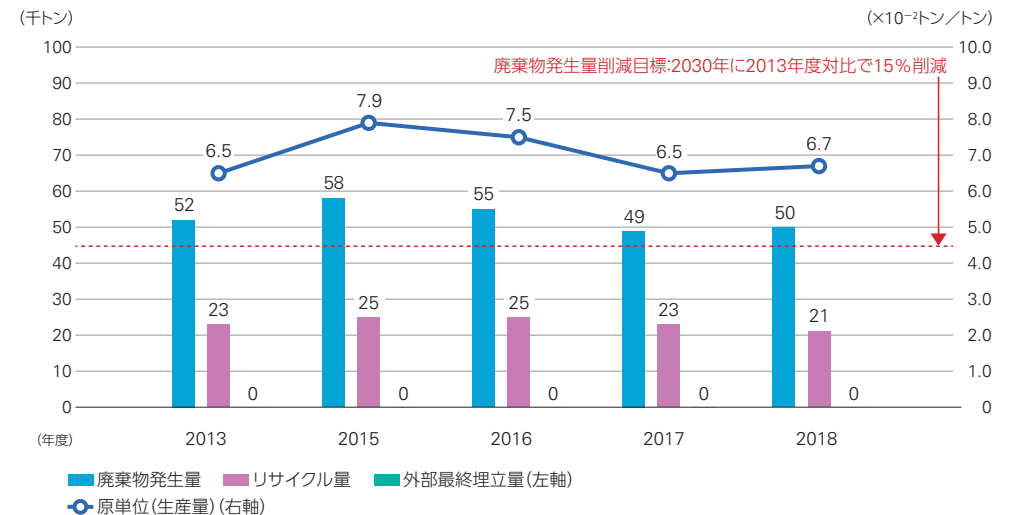
今後は、以下の2点を長期目標(2030年度)とし、廃プラスチック類のさらなるリサイクル推進を進めるとともに、社内セミナー、キャラバンなどによる意識改革や日常生活における3R推進(レジ袋、PET容器など)、海岸クリーンアップ活動などへの参加による社会貢献などに努めていきます。

- ・100%リサイクル(熱回収も含む)
- ・60%リサイクル(熱回収含まず)

### JSRグループ全体の廃棄物量



### JSR単体の廃棄物量



# レスポンスブル・ケア

## 品質マネジメント

### 1. 基本的な考え方

JSRグループでは企業理念「Materials Innovation マテリアルを通じて価値を創造し、人間社会(人・社会・環境)に貢献します。」を制定し、さらに経営方針の中で「顧客満足度の向上の重視」と「顧客満足度の持続的な向上」といった品質に関する基本方針を全社に示しています。お客様のニーズに合った「革新素材」「良い製品」を提供し、より良い社会の実現に貢献していくことは、JSRグループの重要な役割であると考えています。

### 2. 品質保証活動

#### (1) ISO9001認証取得

JSRグループでは化学品を中心に様々な分野の製品やサービスをお客様に提供しています。全ての製品やサービスにおいて安定した品質をお客様に継続的にお届けするために、製造・品質の管理基準(ISO9001※1)に基づく管理体制の下、日々の管理を徹底するとともに、さらなる品質向上を目指して努力を続けています。

ISO9001の認証については主たる工場・事業所(関連する事業部や間接部門を含む)で取得しています。それぞれの認証取得事業所では、QA(Quality Assurance)推進会議を持ち、トップとして各工場長や経営層が運営しています。この会議に取り上げられるテーマは、品質レベルの向上活動、品質不良の予防対策、CS活動※2の展開、品質異常の報告などがあり、収集された情報

は層別されて同根の問題の再発防止に役立っています。特に力を入れている活動はCS活動であり、顧客のクレーム、あるいはクレームまでは至らなかった品質トラブルを、層別、解析し、その結果をクレーム・トラブル予防に応用し、品質リスクを常に把握・解析することで品質クレーム・トラブルの撲滅に役立っています。再発防止・歯止めを行い、水平展開により品質問題の予防活動に力を入れています。このようにして問題の発見から再発防止策の運用は、PDCAサイクルとして運用されています。

※1 ISO9001:国際標準化機構(ISO)が発行する品質マネジメントシステムの国際規格

※2 CS(Customer Satisfaction)活動:お客様の期待に応えることによって満足してもらい、顧客との関係をより良いものにし、信頼関係を築いてそれを販売につなげる活動

#### (2)グローバル品質ガイドライン

JSRグループでは、開発・購買・生産・販売ともにグローバル化する中、「Materials Innovation」を実践し続ける上で品質に関する考え方をJSRグループ全体で共有し、その考え方に乖離を生じさせないことが必要と認識しています。そのために、JSRグループが拠りどころとすべき品質管理に関する基本的な考え方・仕組みの共通化(品質管理の考え方の違い・ばらつきをなくす、共通言語化など)を図るための指針を制定しています。

そのグローバル品質ガイドラインには、企画(事業モデルなど)や品質設計のデザインレビュー、委託先管理、試験管理、物流管理、グローバル緊急対応体制などの品質異常対応など、当社の神髄である「ものづくり」において欠かすことのできない品質管理手法を例示し、基本的な考え方・仕組みの共通化を推進していま

す。また、製品の企画・設計・開発から量産化、お客様対応までのサプライチェーンにおいて、安定した品質の製品やサービスをグローバルに供給し続けていくために、JSRグループの海外生産拠点はもとより、委託先や取引先様をも含めた品質管理の体制構築にも注力しています。今後もグローバル、かつ広範な分野への事業展開への対応、ならびに、それに伴うサプライチェーンの多様化やお客様のニーズの高度化などへの対応の観点から、グローバル品質保証体制の強化を進めていきます。

#### (3)品質教育

品質レベルの向上・製品事故の予防に向けた教育も当社の重要な活動です。JSRグループでは、社員教育の充実にも力を入れており2007年度に3工場に研修センターを新設。教育プログラムを拡充し、品質管理やPLP※3の教育、QFD※4セミナー、製品安全に関する研修など、社員の階層別(入社1-3年の社員、入社6-10年の社員、マネージャー昇格前後の社員など)に実施しています。

JSRグループは今後も品質管理のレベルアップを図り、お客様の高度なニーズにお応えするために、社員一人ひとりの品質に対する意識改革を推し進め、人材の育成に努めていきます。

※3 Product Liability Prevention  
※4 Quality Function Deployment

#### (4)品質監査

工場のQA活動トピックス(クレーム・トラブル推移と対策状況、工程能力向上活動など)の報告や品質改善活動の発表会(シックスシグマ研修、小集団改善活動)、顧客満足度調査結果報告を中

心とした経営トップによる品質パフォーマンス監査を毎年実施しています。

その他、品質マネジメントシステムの改善を目的に内部品質監査、外部品質監査なども実施しており、各々の品質監査では顧客満足度の向上を視点に、品質管理活動や品質管理の仕組みの改善に取り組んでいます。



経営トップによる品質パフォーマンス監査の様子  
(JSR(株)四日市工場)



品質パフォーマンス監査 最優秀表彰  
(2019年3月28日 JSR(株)本社にて)